



Vol.8

発行 2009年8月
動物愛護ボランティア
《ねこの会》

事務局：TEL/FAX 0263-36-2192

つくばに来てからの雑感 岡田 英二

今年の4月から転勤のため、茨城県つくば市に赴任しました。本腰を入れた活動が出来なくて皆様には迷惑をお掛けしますが、せめて、碌な編集をしておりますが、「またたび通信」くらいは編集が出来るので協力します。今後も宜しくお願いします。

さて、私の今住んでいるアパートと仕事場は、つくば市の中心から8kmくらい離れたところに位置していますが、周りは畑や田んぼに囲まれた田園風景を呈しています。アパートのすぐそば（数m先）で雉子がつがい何匹もいることに驚いてしまいました。住まいと仕事場は3kmほど離れていますが、片側3車線もある広い車道に申し訳なさそうに歩道が付いた道を自転車で通うと、大きな犬の糞がゴソッと落ちていくところに出くわします。そんな仕事場の敷地内には野ウサギが飛び跳ね、大きな鷲や鷹が舞っています。ここの旧家では隣りが数十から100m位離れており、街や施設の離れ具合が全てキロメートル単位で説明でき、車がないとかなり生活には厳しい場所です。朝、夕は通勤のため渋滞がそこかしこの交差点付近で起こり、車が多いせいか、狸や鳥が轢かれているのをちらほらと見かけます。

そんなつくばに来て驚いたことが、こちらのペットショップやホームセンターでは圧倒的に犬のグッズが多くて猫の物は少ないことです。そんな中でも猫の餌の種類はそれなりに揃えているところもありますが、特に極端に少ないのは、猫のトイレ関係の物です。猫砂トイレの本体はフード付きの物は余り見かけず、砂の種類も2、3種類程度です。そういえば、つくばに来てから野良猫を見かけていないなと思いました。職場の人に聞いても野良猫は見かけないと云う人が多いです。市の中心部については詳しく知りませんが、広い敷地内の高層住宅と大型店舗やモール。郊外においても広い道路と農道、広大な

田畑。猫にとって居心地のいい場所は各個人の家だけという感じがします。でも、この前の夜、アパートのそばの駐車場で猫集会を見ました。5、6頭ほど円陣を組んだように座ってました。

このような風土のせいか、動物の飼い方に責任感が余り感じられません。つい先日、職場内のゴミ捨て場所にガリガリに痩せた3ヶ月くらいの仔猫が居ました。どう考えても捨てられたとしか思えません。近くの獣医がわからず仕方ないので、手術するために松本に連れて行きました。お陰様で「ねこの会」で、飼ってくれる人を探して頂けるそうです。その前にも正門の前にシャモのような鶏が捨てられており、闊歩していました。前述した犬の糞の放置、鎖をつながないで大型犬を散歩するなど枚挙に暇がありません。猫を放し飼いにしても苦情が少ないようですが、野生の動物も身近にいるので、気にしていないような感じがします。犬はほとんど愛玩、猫は居候。人も動物も、お互いがメリットを受ける共生関係が出来ている、とはほど遠いのが現状です。そんな中でも「動物愛護を考える県民ネットワーク・つくば市民の会」というグループがTNR活動を行っているという記事が常陽ウィークリーという情報誌に掲載されていました。TNRとは、T=トラップ（捕獲）、N=ニューター（不妊手術）、R=リターン（元へ戻す）の頭文字を取って名付けられたそうです。しかし、記事を読むと、地域ねこ活動というよりは仔猫保護が主体で、避妊・去勢の手術費や餌代の負担が大きく、活動には限界があると書かれており、まだまだ、ボランティアだけで地域を動かす力は感じられませんでした。動物愛護はボランティアだけでは行政は動きません。

茨城県では行政が動いている話を聞きませんが、同じ田園風景のある田舎なのに、長野県との違いを痛感しました。